

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室史

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室史

—日本耳鼻咽喉科史より—

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室史

—日本耳鼻咽喉科学会百年史より—

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室史

—平成5年から現在—

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室史

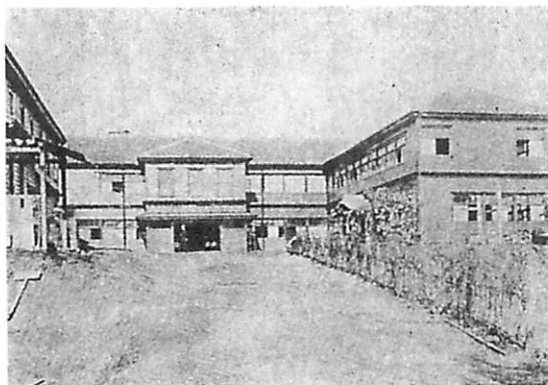
沿 革

本学は明治9年私立済生学舎の設立にはじまる。明治37年私立日本医学校、明治45年日本医学専門学校と発展していったが、当時は耳鼻咽喉科学教室というものはまだなかった。しかしながら当時ドイツ留学より帰朝したドクトル小此木信六郎は済生学舎に引き続き日本医学校、日本医学専門学校に関係し、後の日本医科大学第二代学長に至る間、臨床講習会あるいは臨床講義式のものを実施した。当時、慈恵医大耳鼻咽喉科創設者の金杉英五郎氏および初代東大教授の岡田和一郎氏などの援助があった。

その後、桑名竜太郎（大正3年以降）、および宇田 清（大正7年以降）、西崎豊寛（大正11年以降）、深浦文雄（大正13年以降）の各教授へ引きつがれていった。大正15年、日本医科大学に昇格し、教授は杉浦右門（大正15年以降）、西端驥一（昭和5年以降）、義江義雄（昭和8年以降）、大藤敏三（昭和12年以降）、高杉小三郎（昭和13年以降 丸子病院）、橋本泰彦（昭和36年以降）、永井汎（昭和46年以降）に継がれ、現在、奥田稔（昭和54年以降）に至っている。

この間、桑名教授は主に講義を担当し、宇田、西崎、深浦、杉浦各教授はそれぞれ第一、第二両病院で臨床を担当した。西端ついで義江の教授就任によりはじめて講義、臨床ならびに研究方面の積極的活動がなされ、業績はようやく上昇したが任期が短かったため、基盤の建設にとどまった。さらに基盤を強固にし、発展に貢献したのはこれに引き続く大藤、橋本の両教授の努力による。

本学は四つの附属病院をもつ。現在の附属病院は明治43年日本医学校の神田から千駄木への移転に始まる。本学の本部、基礎医学教室は現在千駄木地区に集まっている。附属第一病院は大正13年日本医学専門学校附属飯田町医院開設に由来する。附属第二病院は昭和12年日本医科大学附属丸子病院、附属多摩永山病院は昭和52年の開院になる。いずれも教育、研究、地域医療の場になっている。



明治期 日本医学校（千駄木校舎）



小此木信六郎



桑名竜太郎



宇田清



西崎豊寛



深浦文雄



杉浦右門



西端驥一



義江義雄



大藤敏三



高木小三郎



橋本泰彦



永井 汎



奥田 稔



弓削庫太

歴代教授

- 小此木 信六郎 (明 37~) 日本医学専門学校理事長, 日本医大学長
桑 名 龍太郎 (大 3~昭 5)
宇 田 清 (大 7~大 15)
西 崎 豊 寛 (大 11~大 13)
深 浦 文 雄 (大 13~昭 3)
杉 浦 右 門 (大 15~昭 5)
西 端 驥 一 (昭 5~昭 8) 開業後慶応義塾大学教授に就任
義 江 義 雄 (昭 8~昭 12) 多摩全生園に転任
大 藤 敏 三 (昭 12.6~昭 43.3)
高 木 小三郎 (昭 13~昭 19)
橋 本 泰 彦 (昭 36.4~昭 53.3)
永 井 汎 (昭 46.4~昭 54.3) 現附属第一病院長
奥 田 稔 (昭 54.4~現在)
弓 削 庫 太 (昭 57~現在)

歴代助教授

- 村 上 正 徳 (昭 6~昭 7) 公立福島病院部長に転任, 昭 19 より福島県立医科大学教授
芳 野 清 夫 (昭 23~昭 36) 昭 19~昭 26 臨時医専教授兼任
橋 本 泰 彦 (昭 25~昭 36)
古 内 一 郎 (昭 42.11~昭 54.9) 獨協医科大学教授
弓 削 庫 太 (昭 42~昭 57.4)
野 本 耕一郎 (昭 38.8~昭 43.7) 没後, 教授に昇格
牛 嶋 申太郎 (昭 52.10~昭 54.12)
神 尾 友 和 (昭 53.4~現在)
服 部 康 夫 (昭 54.10~現在)
島 田 早 苗 (昭 54.10~現在)

研究・臨床

教室における西端の研究は主として前庭迷路に関するものおよび鼻副鼻腔に関するものであり、義江は中耳炎の病態、耳鼻咽喉科領域のX線学的研究が主であった。

大藤は昭和 23 年第 49 回日耳鼻総会において戦後物質不足のなか、「神経、聾と脳脊髄液」と題する宿題報告をし、以来内耳病態生理の新展開、鼻腔、副鼻腔機能検査あるいは喉頭癌、音声言語医学などに関する多数の業績をあげた。また、昭和 43 年 5 月から 3 期 6 年間日本耳鼻咽喉科学

会の理事長として学会の発展に貢献した。

橋本は大藤教授門下で、助教授を経て昭和36年教授に就任、主として耳科学(内耳開窓術、鼓室成形術などの聴力改善手術に関する臨床ならびに実験)および気管食道科学(気管および食道の病態の臨床ならびに実験)の研究にあたり、昭和26年日本気管食道科学会総会において宿題報告“気管気管支の生理”昭和28年第54回日本耳鼻咽喉科学会総会において“内耳開窓術”の宿題報告を兼担した。

奥田は昭和54年和歌山医大から赴任、年来のテーマである気道アレルギー(主に鼻アレルギー)を含めて鼻疾患、頭頸部腫瘍、唾液腺疾患の診療、研究に力を注いでいる。弓削、服部は気道疾患の形態学とくに電顕的研究を行っており、神尾、八木聰明(講師)は神経耳科学、聴力改善手術、島田は扁桃疾患の研究に従事している。

現在フルタイムの医局員は約40人で、教室の伝統をふまえて、耳鼻咽喉科学の発展に即応した研究、診療、教育に努めている。

同門会

同門会は古くからあったが、現在の「橘鏡会」は昭和28年に発足し、大藤、橋本両教授を経て現在永井 汎附属第一病院長が会長である。耳鼻咽喉科学の研究を行い、その進歩に寄与し、あわせて会員相互の親睦を図るのを目的にしている。

その他

昭和19年3月日本医科大学医学専門学校が専門学校令により設置され、芳野清夫助教授が教授を兼任して耳鼻咽喉科学を担当したが昭和25年廃止となった。

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室史

沿革

本学は明治9年私立済生学舎の設立にはじまる。これより20年後、明治29年10月にドクトル小此木信六郎によって耳鼻科の講義が開始されており、これを後の日本医科大学耳鼻咽喉科の礎とし、明治37年私立日本医学校（神田）の開校をもって耳鼻咽喉科学教室の開講としている。小此木は済生学舎に引き続き、日本医学校、日本医学専門学校に関係し、後の日本医科大学第二代学長に至る。大正15年には日本医科大学になり、昭和35年には大学院が設置されている。付属病院は4病院であるが、大正4年4月には文京区千駄木に日本医学校付属病院（現在の付属病院）が開設され、次いで大正13年7月には日本医学校付属飯田町病院（現在の付属第一病院）が開設、昭和12年6月に日本医科大学付属丸子病院（現在の付属第二病院）が開設され、昭和52年7月には多摩永山病院が開院した。

歴代教授

小此木信六郎，桑名 竜太郎，宇田 清，西崎 豊寛，深浦 文雄，杉浦 右門，西端 驥一，義江 義雄，大藤 敏三，高木 小太郎，橋本 泰彦，永井 汎，奥田 稔，弓削 庫太，八木 聰明，服部 康夫
主任教授の名称は橋本泰彦教授以後で、奥田 稔，八木聰明の3人である。服部康夫は診療教授である。

八木 聰明（平4～現在）：神経耳科学の基礎および臨床は広い分野におよび、さらに発展している。また、耳科手術，とくに聴力改善手術は経験も多い。主任教授に就任して日が浅く、今後の一層の発展が期待される。



八木 聰明

人事

名誉教授

大藤 敏三，橋本 泰彦，奥田 稔

歴代助教授

村上 正徳，芳野 清夫，橋本 泰彦，古内 一郎，弓削 庫太，野本 耕一郎，牛島 申太郎，神尾 友和，島田 早苗，服部 康夫，八木 聰明，大塚 博邦，富山 俊一，馬場 俊吉

専任講師

中村 兼一，大西 正樹，青木 秀治，山田 潤

教 育

卒後2年間の研修医の間に麻酔科、救命救急センターなどの2科に各3ヵ月間ローテートする。入局3年目には1年間派遣研修病院にて、指導医のもとに臨床研修を行う。また、3年目からは、研究指導者の指導のもとに基礎的研究や臨床的研究を開始する。5年終了時には日本耳鼻咽喉科学会認定専門医の試験を受験し、専門医となるよう教育する。教育にあたっては、付属4病院の機能とスタッフを有効に利用する。

研 究

平衡神経学に関しては、前庭神経一次ニューロンの生理学的研究、頸部入力 of 平衡維持に対する影響、視運動性後眼振の研究、眼球運動三成分のコンピュータ解析による温度眼振発現機構、良性発作性頭位眩暈症の病巣局在の解明などを行っている。聴覚に関しては、耳鳴の発現や治療、突発性難聴の治療、聴性脳幹反応の研究などを行っている。また、内耳免疫によるメニエール病のモデル動物の作成とその研究、内耳自己抗体による難聴の研究も積極的に行っている。アレルギーに関しては、アレルギーのメディエータ、好酸球と特異機能、肥満細胞の多様性、増殖のメカニズム、薬物に対する反応性などが研究されている。気道の超微形態に関する研究も行われている。

臨 床

特殊外来として、めまい、アレルギー、顔面神経、耳鳴、補聴器、腫瘍の各外来を行っている。めまい外来では、耳鼻咽喉科新患者の1割以上の患者の検査を行っている。耳鳴外来では、主としてマスク療法を中心に治療を行っている。アレルギー外来では、減感作療法をはじめとして、薬物による治療も行っている。年間の新患者数は約6000人、入院患者は約700人である。

主催学会

日本頭頸部腫瘍学会（奥田 稔：昭56）

日本臨床電子顕微鏡学会（奥田 稔：昭62）

日本アレルギー学会（奥田 稔：平1）

同門会

同門会は古くからあったが、現在の「橘鏡会」は昭和28年に発足し、大藤敏三、橋本泰彦両会長の後、現在は永井 汎元教授が会長である。耳鼻咽喉の研究を行い、その進歩、向上、発展に寄与し、教室の運営に協力し、会員相互の親睦を図ることを目的としており、年1回の総会を開催している。

その他

昭和19年3月日本医科大学医学専門学校が専門学校令により設置され、芳野清夫助教授が教授を兼任して耳鼻咽喉科学を担当したが昭和25年廃止となった。

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室史

——平成5年から現在——

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室の歴史は、本冊子に日本耳鼻咽喉科学会の許可を得て掲載した、日本耳鼻咽喉科史（日耳鼻編昭和58年刊行）、および日本耳鼻咽喉科学会百年史（日耳鼻編平成5年刊行）に詳しく記されている。従って、ここでは平成5年以後今日まで（平成8年9月）の教室の変化について多少補足したい。

本学は千駄木の付属病院の他に付属第一病院、付属第二病院、付属多摩永山病院の合計4病院を有している。これに加え、大学全体の将来構想を踏まえて、千葉県印旛郡に付属千葉北総病院が平成6年に開院し、現在は5付属病院がある。千葉北総病院は、地域の医療は無論のこと、現在は卒後教育の場としてその機能を果たしているが、将来的には大学の多くの施設が移転する予定である。また、この将来構想事業の一環として、大正13年に日本医学校付属飯田町病院として開院し、診療や教育に大きな役割を果たしてきた現在の付属第一病院は、平成9年10月をもって閉院することになっている。

教室の行事は、引き続き継続的に行われており、付属5病院耳鼻咽喉科集談会は40回を越え、日本医科大学と東京女子医科大学第2病院、および駒込病院の耳鼻咽喉科で主催している耳鼻咽喉科勉強会も奥田名誉教授以来継続している。これらの勉強会に加え、東京大学医学部耳鼻咽喉科と東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科、および本学耳鼻咽喉科で行っている3大学セミナーも、当初は年3回、現在は年2回開催され、まもなく10回目を迎えようとしている。

教室では、その後学会の主催を行っていないが、平成5年7月には第23回平衡機能技術講習会を、平成7年7月には第12回日本平衡神経科学会医師講習会を主催している。また、平成8年からは、八木聰明教授が耳鼻咽喉科学会理事に就任し、また平成9年の第98回日本耳鼻咽喉科学会総会で「眼球運動の三次元解析からみた平衡機能とその異常」と題した宿題報告を行うことになっている。

現在の教育スタッフは、八木聰明（主任教授・付属病院部長）、服部康夫（診療教授・第一病院部長）、大塚博邦（助教授・第二病院部長）、島田早苗（助教授・多摩永山病院部長）、青木秀治（助教授・千葉北総病院部長）、富山俊一、馬場俊吉（助教授・付属病院）、大久保公裕、相原康孝、野中 学（講師・付属病院）、上野則之（講師・第一病院）である。

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室開講百周年記念事業実行委員会

委員長	奥田	稔					
副委員長	八木	聡明					
委員	相原	康孝	荒牧	元	上野	則之	
	牛嶋	申太郎	後藤	博一	鈴木	徳重	
	野中	康弘	服部	康夫	馬場	俊吉	
	増野	肇	目澤	朗憲			
顧問	大藤	敏三	永井	汎	弓削	庫太	

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室百年史

発行日	1996年10月15日	(非売品)
編集	日本医科大学耳鼻咽喉科学教室 開講百周年記念事業実行委員会	
発行	日本医科大学耳鼻咽喉科学教室 〒113 東京都文京区千駄木1-1-5 電話 03-3822-2131	
制作	株式会社医学書院出版サービス	
印刷	三報社印刷株式会社	
